

# 当事者が書いた本と

# 著者からのメッセージ

認知症当事者や認知症の介護経験者としての著書がある、丹野智文さん、樋口直美さん、下坂厚さん、矢吹知之さん、小菅もと子さん、中村成信さん、生井久美子さん、藤川幸之助さんから上越市のみなさんへのメッセージをお寄せいただきました。

貸出中、または他の図書館の本は予約ができます。

協力：上越オレンジパートナーのみなさん

著者・丹野智文さんからのメッセージ

私がお会いしてきた  
多くの当事者の声か書いて  
あります。

みなさんの備えとなる本  
になると思います。

認知症の人が1人でも  
笑顔になりますように!!

丹野智文



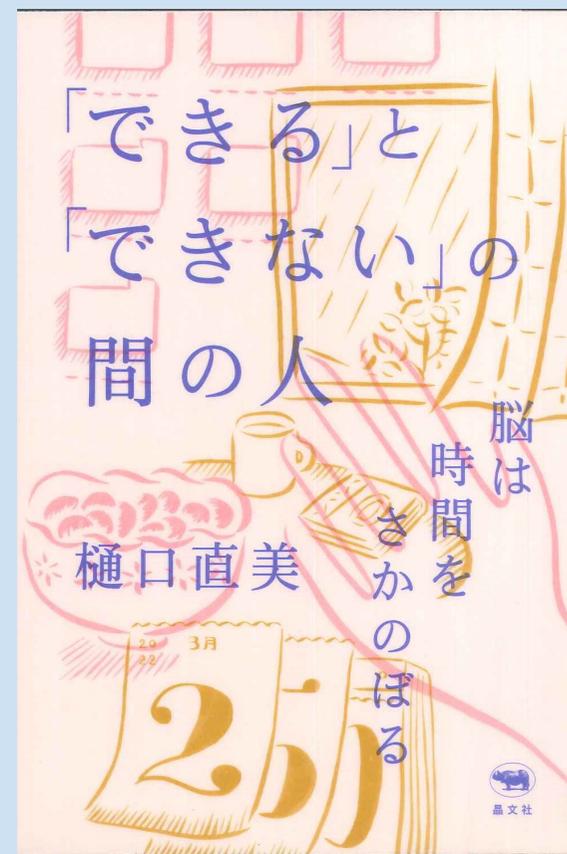
著書 『認知症の私から見える社会』講談社／発行 2021年9月 直江津所蔵

## 著者・樋口直美さんからのメッセージ

若い頃から何事も思うようにいかず、コロナ禍でできないことが増えていく親と私…。

不安を感じているすべての人に届けたくて書きました。

クスッと笑って読めて、息がしやすくなる、人生とケアをめぐるエッセイ集です。



著書『「できる」と「できない」の間の人』晶文社／発行 2022年 直江津所蔵

## 著者・下坂厚さんからのメッセージ

この本は闘病記ではありません。

悲劇でも、美談でもありません。

「泣ける」という言葉で安易に消費されてしまわない、豊かな強さと明るさをまとった、現実を生き、そして未来を見据えるふたりの「いま」と「これから」がしっかりと詰まっています。



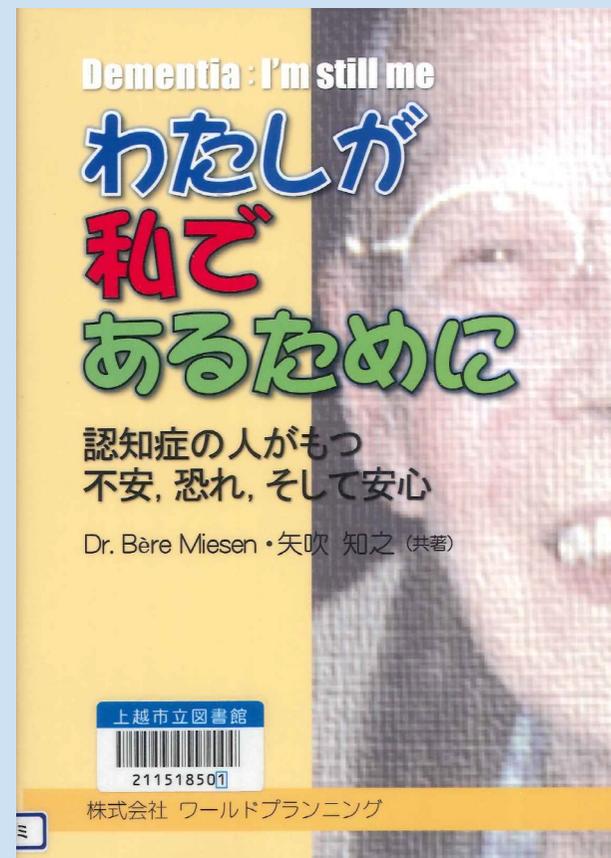
著書『記憶とつなぐ』双葉社／発行2022年 頸城所蔵

## 著者・矢吹知之さんからのメッセージ

認知症カフェをご存じでしょうか？

認知症カフェのユニークなところは、認知症の人だけを対象にしているのではなく、家族、地域住民、そして専門職も対象になっていることです。つまり、認知症の有無に関係なくすべての人であり、その意味は「社会を変えていこう」という取り組みです。

本書は、認知症カフェのルーツである、オランダのアルツハイマーカフェの創始者のベレミーセン氏と書いた本です。なぜ、こうした取り組みが必要になったのか？そして私たちも、認知症の当事者として考えることの大切さを知ることができると思います。



著書『わたしが私であるために』ワールドプランニング／発行 2022年 直江津所蔵

## 著者・小菅もと子さんからのメッセージ

認知症の義母と同居し、心の葛藤や試行錯誤を繰り返しながら、絵画展を開くまでを綴りました。

周りの理解と協力があれば、しあわせに暮らせます。

映画「折り梅」は、地域で認知症を考えるきっかけとなっています。



(高田所蔵)



(直江津所蔵/DVD)

著書『忘れても、しあわせ』日本評論社／発行 1998年 高田所蔵

DVD「折り梅」松井久子/監督 小菅もと子/原作 エッセン・コミュニケーションズ 2007年 直江津所蔵

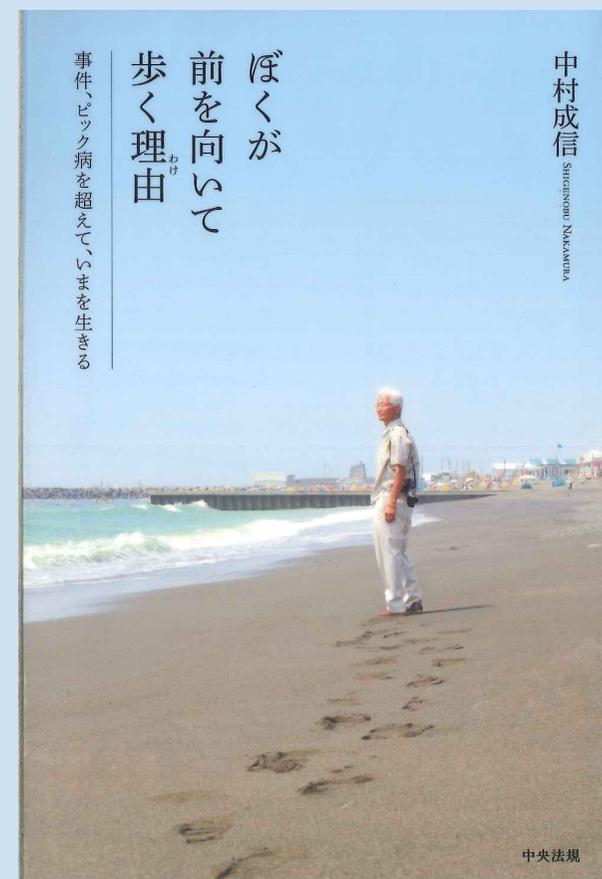
## 著者・中村成信さんからのメッセージ

認知症になって出来なくなってしまったことを嘆くより、まだ出来ることを楽しもうと写真を始めました。

楽しめる趣味と人との交流によって、認知症になっても生き生きと生活できることを実感できるようになりました。

認知症は楽しく生きる第二の人生なのです。

多少の不自由があっても、諦めずに人生を楽しみましょう。



著書『ぼくが前を向いて歩く理由』中央法規出版／発行 2011年 直江津所蔵

## 著者・生井久美子さんからのメッセージ

こうこつ

「恍惚の人」から「希望の人」へ。

認知症の本人同士が出会い、つながり、発信する。認知症の「常識」を変える、当事者の力！

このうねりは、いつ、どのように広がってきたのか。

本著は、日本で初めて公の場で語った女性や、世界の先頭を走る豪州の当事者との出会い、初の当事者団体誕生の軌跡—など、へこたれずに一步踏み出した「希望の人びと」の人生の物語です。いままも「進化」し「深化」する人びとを追いつけています。



著書『ルポ希望の人びと』朝日新聞出版／発行 2017年 高田所蔵

ちょしゃ ふじかわこうのすけ

## 著者・藤川幸之助さんからのメッセージ

みなさん、こんにちは。

しじん じどうぶんがくさつか ふじかわこうのすけ  
詩人で児童文学作家の藤川幸之助です。

わたし あか てがみ  
私は『赤ちゃん キューちゃん』、『おじいちゃんの手紙』、

いっぼん せん あか  
『一本の線をひくと』、『赤いスパゲッチ』、『じいちゃん、  
しゅっぱつしんこう にんちしょう だいざい えほん か  
出発進行!』という「認知症」を題材にした絵本を書いています。

こ  
子どものみなさんは、もしかして

にんちしょう とし ひと びょうき  
「認知症」は年をとった人の病気です。

じぶん かんけい おも  
自分とは関係のないものだと思いませんか？

こ ふか  
いいえ、子どものあなたたちとも深くつながっています。

みなさんのおじいちゃんやおばあちゃんが

にんちしょう  
「認知症」になるかもしれません。

とう かあ  
みなさんのお父さんやお母さんが

にんちしょう  
「認知症」になるかもしれません。

とし  
みなさんもうずれ年をとっていき

じぶん にんちしょう  
自分が「認知症」になるかもしれません。

とき じぶん  
そうなった時、自分はどうか。

じぶん  
自分はどうしてほしいか。

じぶん えほん よ  
自分のこととしてこの絵本を読んでほしいのです。

にんちしょう て と  
そして、「認知症」の人たちと手を取り

い  
いっしょに生きるとはどういうことなのか

にんちしょう えほん よ  
この認知症の絵本を読みながら

いま かんが  
今のうちに考えてほしいのです。

ふじかわこうのすけ  
藤川幸之助 2022/08/21



ちょしょ いっぼん せん

著書『一本の線をひくと』クリエイツかもがわ／発行 2020年 4館所蔵(児童書)ほか

はっこう

かんしょぞう じどうしょ